

製本のススメ

Vol. 24

リニューアルから何と24回目のススメです！よくぞ2年も書くことがあるなと我ながら感心しきりですが、それだけ製本は奥が深いわけですね。たかが製本 されど製本また今年もしっかり学びましょう。

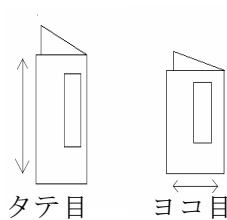
年の初めは やっぱり紙目のお話

どんな技よりも基本が第一！最近ではA列版が増えて、用紙の紙取りも難しいところですが、紙目は全ての製本加工に影響がでますので、十分に注意してください。製本で言う紙目とは本になった時に天地に対して流れ目を縦目・小口に対して流れ目を横目と言います。全紙での紙目ではないので、間違えないようにしましょう。

さて軽印刷の冊子と違い、上製本では、あらゆる加工過程で湿式の糊を使います。そのために、随所からの湿気が本文に影響し、紙目に順じて瞬時にたわんでいきます。下の写真は、本文が横目の上製本ですが、見返しの糊に加え、背中の加工も湿式の接着剤であるため、本全体に湿気がまわり、小口が波打っています。この波打ち現象は、プレスをかけても治りません。特に丸背の場合は、背中を丸く加工することが出来ず、残念な仕上がりになってしまいます。主に小部数の上製本では、最近このような事態が起こりやすく、安易な紙使いが致命的な結果になります。

また口絵等のカラーを、コピーで済ませてしまうことも多く、湿気に弱いトナーインクと紙目の悪条件が重なって、粗悪な上製本が出来上がります。コスト優先な気持ちはよくわかりますが、自然の力には敵いませんので、ぜひとも、紙目は一番に考慮して

いただきたいものです。



本になったとき
紙目が天地に
流れているものが
製本の縦目です



Teabreak

毎日寒いですね～寒いと鳥肌が立ちます、でも顔には鳥肌ってたちませんね。鳥肌は立毛筋が収縮して起こる現象だそうで、実は顔にも立っていますが、顔は血行が良くて寒さにも強く、また顔の立毛筋は かなり退化していて、あまり目立たないそうです。鳥肌と同時にブルッと震えがきますが、これは筋肉を収縮させて体内に熱を起こしているのだそうです。昔「全身を顔にせよ！」とお爺さんたちが寒風摩擦をしていましたが、血行を良くする健康法だったのでしょいか？

by(株) 井関製本